

## 蓮華寺の庭園

中山道62番目の宿場町に数えられている番場宿。その一角に配されているのが、浄土宗本山である蓮華寺です。

蓮華寺は寺伝によると、約1300年前に聖徳太子が創建し、法隆寺と称していました。しかし、建治2年(1276)に、落雷により焼失してしまいます。その後、弘安7年(1284)に、一向上人が滞在したこともあり、堂宇が再建されました。この時から、八葉山蓮華寺と改称し、一向上人を迎えて、時宗一向派の大本山として再出発します。しかし、昭和に入ってからは浄土宗に帰属し、本山とされています。

本堂の奥の方に、池泉観賞式の庭園が広がっています。作庭されたのは、応仁の乱後の復興期であり、江戸時代に入ってからは、庭園全体の整備が行われたといわれています。庭は釈迦塔の山裾地形を活かして造られています。中央部分には、空海(弘法大師)が植えたとされるコウヤマキがそびえています。庭園の池は山号と同じく、「八葉池」と名付けられています。八葉とは、蓮を指し、かつては池にも蓮

が植えられていたと伝えられています。

庭園の見頃は、庭園内に植えられているミツバツツジが咲き誇る4月上旬です。時期が合えば、ほぼ同じ頃に咲く桜とのコントラストを楽しむことができるでしょう。(梅本 匠)



▲蓮華寺勅使門

## 情報 BOX

◆米原市文化財担当部署の名前・住所変更のお知らせ  
機構改革により、文化財保護行政・資料館施設等の担当部署は下記のように変更となりました。

〔変更前〕

まなび推進課  
〒521-0292 滋賀県米原市長岡1206

〔変更後〕

生涯学習課 歴史・文化財保護室  
〒521-0072 滋賀県米原市顔戸281-1 近江はにわ館 内  
※住所の変更登録をお願いします。

◆米原市教育委員会では、下記の埋蔵文化財活用パンフレットを刊行しました。

『天野川流域の古代寺院』

壬申の乱から聖武天皇へ 一地方寺院の役割一  
※市内の白鳳寺は、天野川流域に展開しています。東山道や琵琶湖の水運との関わりから古代寺院を紹介しています。

◆伊吹山文化資料館では、下記の冊子を刊行しました。  
『伊吹山文化資料館年報12 平成21年度の活動』  
※京極家墓所の石材調査報告なども掲載しています。

『春照区の野仏ガイドマップ』

※子どもたちと調査した石仏や石塔の分布地図です。

## ◆◆編集後記◆◆

見開きには、琵琶湖博物館の楊平さんと用田政晴さんから玉稿を賜りました。ありがとうございます■さて、今年度になって「歴史・文化財保護室」という生涯学習課のなかの室ができました■昨年まで2人だった文化財担当に入社2年目のUくんが新たに加わりました■これから米原市の歴史・文化財の保護と活用を一手に引き受け、ボチボチやってください■老頭児2人がこれまで培ってきた知識と技術と悪意を、すべて伝授しましょう■伊吹山と靈仙山に抱かれ、姉川・天野川・琵琶湖に育まれ、どの時代にも人の営みがあった米原市です(シャンギリッ子)

### 米原市文化財ニュース

## 佐 加 太 第32号

発行 平成22年8月10日

編集 米原市教育委員会

〒521-0072 滋賀県米原市顔戸281-1  
米原市教育委員会生涯学習課歴史・文化財保護室  
TEL.0749(52)8025

印刷 ビッグバードデザイン株式会社



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました

## 古代の官道「東山道」と米原

慶長6年(1601)、徳川家康は全国支配のために江戸と各地を結ぶ五つの街道を整備し始め、四代將軍家綱の代になって基幹街道に定められました。さらにそのほかの主要街道と、五街道の枝道として脇往還が整備されました。米原市内には、五街道の中山道、主要街道の北国街道および北国脇往還が通過し、六つの宿場が置かれました。今回は、道のまち米原のルーツといえる古代の街道について紹介します。

古代国家は、畿内から全国に、東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道の七道と、30里(約16キロメートル)ごとに駅家を設けました。近江国は、畿内と東国の接点に位置するため、奈良時代には東山道・北陸道が、長岡京遷都(784)以降は東海道を加えた三道が国内を通過します。また、勢多(大津市)・篠原(野洲市)・清水(東近江市)・鳥籠(彦根市)と横川に駅家が置かれました。米原市内にあった横川駅の位置は、醒井と梓河内の二説があり、梓河内には、「馬屋ノ谷」「馬屋ノ谷口」の地名があります。また、平成2年、醒井小学校の発掘でみつかった大型の掘立柱建物は、駅家に関連する可能性が指摘されています。

滋賀県内でみつかった街道の遺跡としては、瀬田唐橋の下流約80メートル地点で「東山道勢多橋」の橋脚台がみつかりました。尼子西遺跡(甲良町)では、東山道と推定される幅員約12メートルの道路跡が検出されました。

1990年代以降、相次いで駅家や道路跡が各地で発掘によって確認されたことで、古代官道は「道幅も広く、目



▲馬屋ノ谷

的空間を直線的に結ぶ高い計画性」をもって施行されたことが明らかになりました。

さて、東山道のルートは神崎・愛知・犬上郡では、古代の土地区画の方向と同じ北から東へ33度傾いて直線で敷設されています。この直線の北東方向延長上には伊吹山があります。伊吹山は美濃方面へ向かう直線道路設定のランドマークとなりました。群馬県内の東山道も国境にそびえる浅間山が重要な役割を果たしています。

古代東山道の復元ルートのうち、米原地区の道筋については、近世中山道の磨針峠越をそのまま古代にさかのぼるとする説が有力です。これは、地形図からみると鳥居本から米原(JR米原駅付近)を目指すのが合理的に見えますが、かつて、ここには琵琶湖第2の内湖・入江内湖が山裾に接していて、通行が困難とされていたことによります。しかし、入江内湖遺跡が縄文時代から平安時代後期までの集落遺跡とされ、変動はあるものの、その形成が12世紀末頃と考えられることから、古代東山道を現在のJR東海道線に近似したルートに設定することも可能になります。街道の経路は時代によって変遷しますが、醒井から柏原前後の経路は、一部を除き近世中山道にほぼ一致するようです。(高橋順之)



▲掘立柱建物跡(醒井小学校)

第32号

2010年8月10日

滋賀県米原市教育委員会

## 水環境の歴史的保全を社会学から考える —泉神社湧水—

滋賀県立琵琶湖博物館 楊 平・用田政晴

### 1 大清水と泉神社湧水

米原市大清水に所在する泉神社湧水は、昭和60年(1985年)7月22日、環境庁水質保全局長から「泉神社湧水」として「名水百選」に認定された。そして、今では静かな村の一角が、水を求める県内や東海地方を中心とする県外の人たちでたいそう賑わっている。

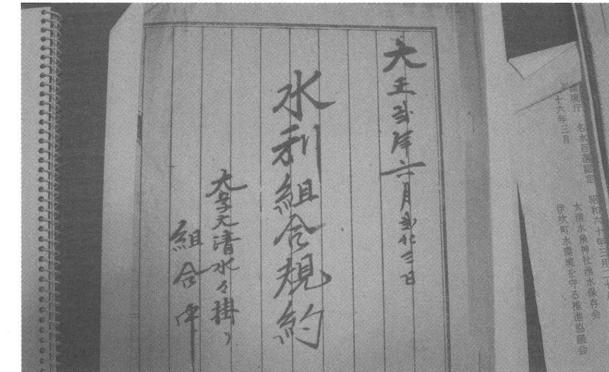
ここは、江戸時代から1989年(明治22年)までは大清水村であったが、古くは大泉村と呼び、もとは伊吹荘に属していた。集落は、伊吹山から南流する政所川に沿った扇状地上にある(図1)。もともと伊吹山系は石灰岩地帯で、雨水が地下に浸透しやすいために、扇状地では伏流水になりやすく、大清水も農業用水には恵まれてなかった。このため集落の北と東には、神戸溜・平野溜・下溜・新溜という4つの溜池を備え、今でも畑が多い(図2)。

ところが、この集落の東には「大清水断層」と呼ばれる20~30mの段差があり、これによって泉神社の裾に水が湧き出している(写真1)。

社伝によると、泉神社は白鳳2年(673年)創建で、天智天皇がこの地を弓馬操練場と定めて人びとが住んだ時、湧き水が出て川となったため、ここを「天泉所」と呼んで水源地を祀ったと伝える。とにかく



▲写真1



▲写真2

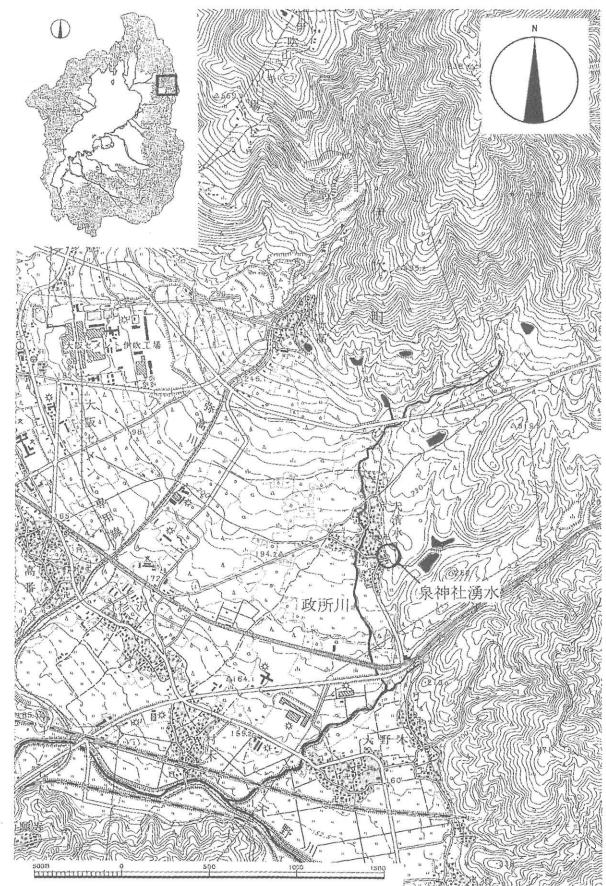
く湧水は古くから知られていたようである。

この神社には永享6年(1434年)の銘文を持つ梵鐘、元禄3年(1690年)の雨乞返礼踊を祈願しての鰐口が奉納されており、太鼓踊(雨乞い)に使われた正徳3年(1713年)作の獅子頭が泉神社・牛頭天王社に伝わる。

### 2 名水百選

水質保全行政の一つとしての「名水百選」が誕生した昭和60年(1985年)当時の状況について、当時の環境庁で最も必要とされた視点は、「地域住民等による保全」という「社会的属性」であった。環境庁による選定のための判定事項には、「保全状況が良好であり、地域住民等による保全活動があること」が必須条件となっていた。農業用水不足に悩んできた集落にとって泉神社湧水は、水利組合の規約により大正時代から用水管理されてきたことも選定された理由の一つであった(写真2)。

こうして選定された名水百選は、「保全活動が組織的に行われ、名水を核とした地域興しに取り組ん



▲図1 大清水と泉神社湧水の位置

でいる地域も見られ」と評価されながら、さらに「地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行われているもの」を、「名水百選」(昭和の名水百選)に加えて新しく「平成の名水百選」として選定し、今日では「名水」はあわせて200となった。

この20年余の間に、水環境の「地域住民等による保全活動」は「主体的」で「持続的」であることが国には求められるようになったのである。

### 3 水環境の保全と意義

こうして、「名水百選」の選定が全国的に行われた当時、滋賀県では2個所しか選ばれなかつたが(写真3)、そのうちの一つがこの泉神社湧水であり、このことをきっかけにこの集落に多くの人がやってくるようになった。区・湧水保存会・老人会・日赤奉仕団・神社氏子など多くの組織がその管理にかかり、今日まで広く多くの人が無料で湧水の恩恵を受けることができている。

地元主導で行われてきたこうした動きは、「地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動」そのものである。「昭和の名水百選」をきっかけとしたこの20年余の活動のご苦労の様子や近年の管理に伴う貴重な経験談は、昨年の9月に湧水保存会や神社関係者の方々から直接聞くことができた。水環境による農村活性化のモデルケースということもできる例である。

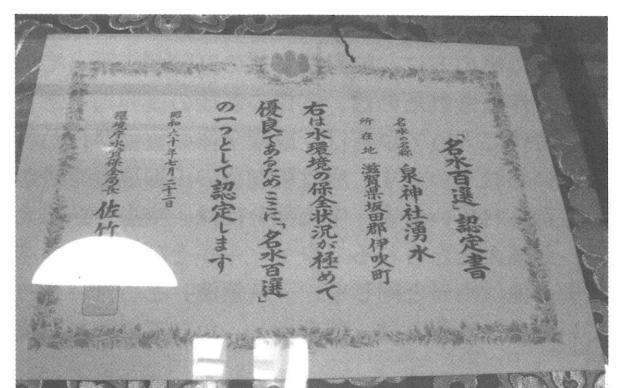
泉神社湧水は、『古事記』をはじめとする古代の史書にもかかわる伝承を持ち、梵鐘銘から中世にまで遡る泉神社の起源、江戸時代中期の雨乞いに使った獅子頭、近代以降になんてもほぼ半世紀ごとに溜池を築造・増設し、大正時代より水利組合のもとで『灌漑日誌』をつけながら用水管理を行ってきたという長い歴史を持つ。

一方で、かつて戦前には、その水でフンドシを洗っていただけでサーベルを下げた巡査が飛んできたというほどの地域の規範を保持していた。こうした地域の人びとの努力を忘れる事はできない。つまり歴史的に、もともと「地域の中で住民が主体となって水環境を保全してきた」からこそ、今日まで「名水」が残ってきたと言ええることができるし、そのことは、この集落が伊吹山麓扇状地にあり水の便に恵まれていなかったが、たまたま生じていた断層に長い間湧き続ける水があったことに起因する。

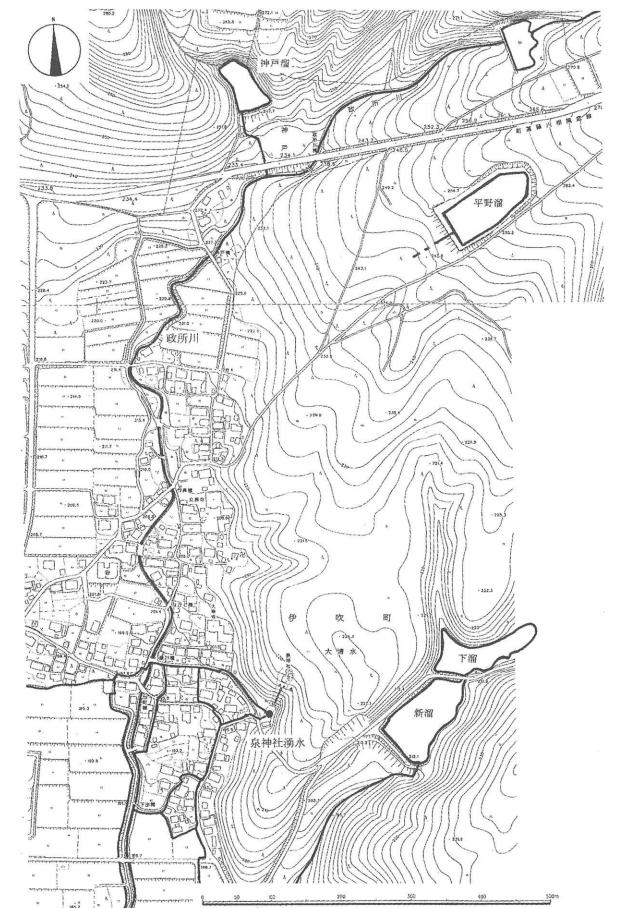
今、「名水」は私たちに「おいしい」とされる水を供給してくれることだけでなく、持続的に地域住民が主体となって、生活中で水環境を規範高く保全していくことこそが重要であると、大清水の事例は私たちに教えてくれるし、泉神社湧水はそんな地域における水環境の歴史的記念碑としても機能しているのである。

### 【参考文献】

- 伊吹町史編さん委員会『伊吹町史』自然編、伊吹町、1992年
- 伊吹町史編さん委員会『伊吹町史』通史編上、伊吹町、1997年
- 江竜喜之ほか『大清水村』『滋賀県の地名』(『日本歴史地名大系』第25巻)、平凡社、1991年
- 片山 徹『日本の名水百選』『水環境学会誌』Vol.24 No.1、2001年
- 環境庁水質保全局水質規制課「名水百選」について(昭和60年3月28日)、1985年
- 環境省水・大気環境局水環境課「平成の名水百選」について(平成20年6月5日)、2008年
- 滋賀県坂田郡教育会『改訂近江國坂田郡志』第5巻、滋賀県坂田郡教育会、1941年
- 滋賀県物産誌』卷之九、坂田郡、1880年(滋賀県市町村沿革史編さん委員会、『滋賀県市町村沿革史』第5巻、資料編1、滋賀県市町村沿革史編さん委員会、1962年(再録))



▲写真3



▲図2 政所川と泉神社湧水から流れる水路網